第１回検討委員会での主な意見及び対応について

資料１

第１回検討委員会での主な意見	対応
アクションプラン全体	
〇進捗状況の評価方法・表現の仕方 ・進捗確認シート（資料２）の評価について、農業研修事業は遅れているのではなく、これからリカバリーするためにどうするのか記載するべきである。また余裕率をみて考えるなど、指標の見直しも必要。次年度以降はどうするのか記載するべきである。ＰＤＣＡの回し方についても、進捗状況の評価の仕方を改善志向で出すべきである。 ・判定が形式的になってしまうと、当面の数値で〇、×をやっているだけになってしまう。何をして、どうなって、〇、×であるのか、評価は後にするくらいの表現の方がよいのでは。	ご意見を参考に、進捗状況評価の記載方法及び今後の予定の表現の仕方について、修正しました。
〇活性化計画改定へ向けた意見の表明 ・町田市北部丘陵活性化計画アクションプランは町田市北部丘陵活性化計画に基づいて策定されたものなので、そもそも内容に不満がある。町田市北部丘陵活性化計画の内容を地域に役立つように見直せば、現状を改善しもっと事業も進むはずである。 ・アクションプランの進捗チェックの意味合いが強くなるが、別立てて新活性化計画の策定に向けて進めるというのであれば、混乱しないように、どのように委員が意見を挙げ、それを整理していくのか、事務局で検討して欲しい。計画の見直しとの関係性を整理して、委員に示すべきである。	町田市北部丘陵活性化計画の改定は２０２０年度に予定しています。 ２０１８年度も継続して課題抽出を行う予定ですが、２０１７年度第２回検討委員会以降に時間を設けてご意見を頂き、中期的・継続的に検討が必要な内容等について、計画改定の際の参考とさせていただきます。
推進事業	
推進事業⑪：生活道路の整備 ・都道 155 号線は東京都の事業であり、町田市の予算で行うのはおかしい。	155 号線は都道であるため、市として要望は続けますが、東京都では整備の予定はないとのことです。しかし、町田市としては必要な事業だと認識しており、市民からの要望に応えていきたいと思っています。
推進事業⑭：里山の景観を楽しむ散策コースの整備 ・野中谷戸の笹原があるところを残すのかなど、調整が必要なのでコースを決定する前に知らせて欲しい。眺望点のイメージは、共有できている。	散策コースについては、情報共有を図って進めていきます。

検討委員会の運営方法	
○活動団体の現況報告について ・事務局が事業の進捗をはかるだけではなく、現在事業を担っている団体がどのように思っているのか、定例の検討会の時か臨時の検討委員会を開き、聞くべきである。 ・計画に実施主体としてNPO法人等が入っているが、団体名の記載がない。その人達が進捗を理解し、共同して進めているという状況を見えるようにして欲しい。	ご意見を参考に、第２回検討委員会において、現在事業を担っている各団体から現況報告していただくこととしました。
○検討委員会の開催回数及び開催時間 ・検討委員会が年２回開催では少ないので１日での時間を増やすか、回数を増やしてほしい。	ご意見を参考に、検討委員会の開催時間を前回から３０分延長し、開催時間を増やしました。
地元や団体への周知方法	
○地元や関係団体との情報共有の手法 ・進捗確認シート上では、地元住民へヒアリングを行い、町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの計画通り進んでいるとのことだが、どのような意見が出たのか今まで聞いていない。地元住民へヒアリングを行う際には、地域を代表して本検討委員会に出席している委員には、事前に誰に意見を聞くか伝えて欲しい。一緒に聞くこともできるので連絡もして欲しい。 ・地域の皆さんとの関係や町内会との接続が必要である。ヒアリングなど、現場で動いている様子は、事前か事後に共有するべきである。また、進捗状況の共有がこの検討委員会だけでは不足である。個別の動きは、細めに情報共有をして欲しい。	必要に応じ、ヒアリングの際に委員へ事前連絡することとしました。 現在事業を担っている活動団体である、鶴見川源流ネットワーク及びまちだ結の里の会員と情報共有及び意見交換をしました。 小野路地区、小山田地区で１月２０日にワークショップ（小野路・小山田ドリームミーティング）を開催し、意見交換をしていただくことで、北部丘陵に対する意識向上を図りました。 アクションプランの進捗状況を情報共有するため、必要に応じ、町内会やまちづくり協議会等のまちづくり団体、ＮＰＯ法人等の活動団体が行っている会議の場に出席して説明すること、地区別ワークショップでの報告や町内会等での印刷物回覧などを検討しております。
その他	
○源源流の危険箇所への対応について ・鶴見川の源源流は、水土砂災害の危険度の高い地域となっている。都の担当者と打ち合わせを行っている。西の窪で竹を切ったが、私有地は手がつけられない。私は町田市が対応してくれたらよいと思っている。ヒューム管で水を集めているが、河道閉塞が起こったら、土砂ダムができてしまう。	市有地が土砂災害警戒区域に指定されていますので、町田市も土地所有者として必要に応じ、関係部署と対応を協議してまいります。